



あわら市

1 吉崎御坊跡 あわら市吉崎

蓮如上人は文明三年(1471)に吉崎で御坊を建立し、浄土真宗布教の拠点とした。教えのわかりやすさから門徒が多数集まり、御坊建立からわずかな期間で寺内町を形成したが、蓮如上人は開山後4年で吉崎を去り、御坊も永正三年(1506)に朝倉氏によって破却された。



坂井市

2 称念寺 坂井市丸岡町長崎

齊藤義龍の軍に明智城を滅ぼされた際、明智光秀は母・お牧の方の縁を頼って、妻・照子とともに称念寺の門前に身を寄せたとされている。



福井市

3 西光寺 福井市左内町

一乗谷領地の取り合い合戦で勝った朝倉氏側が、負かした相手を供養するために建立したと伝えられる。北庄城で自害した柴田勝家と妻・お市の方が眠る墓所がある。

※御朱印記入、勝家公資料館見学は要予約 0776-36-1528



勝山市

4 白山平泉寺 勝山市平泉寺町

泰澄によって開かれた白山平泉寺は、戦国時代には、48社、36堂、6,000の坊院が建ち並び、当時の日本では最大規模の宗教都市であった。しかし、天正2年(1574年)当時、大阪の本願寺方の一方向に攻められ、全山が焼失した。

※明治時代の神仏分離令により現在は「平泉寺白山神社」



大野市

5 朝倉義景墓所 大野市泉町

織田信長の一乗谷攻めに敗れた朝倉義景は、支族の朝倉景鏡を頼り、大野に逃れた。しかし、景鏡の裏切りにあい、六坊賢松寺にて自害した。

※明治時代の神仏分離令により現在は「平泉寺白山神社」



越前町

6 劔神社 越前町織田

織田信長が氏神として深く尊崇し、武運を祈ると共に多くの神領を寄進し社殿を造立するなど、保護と治安に尽くしたとされる。織田氏の祖先が代々神官を務め、尾張に移った際、故郷の名から「織田」を名乗ったとされる。



敦賀市

8 宮番尾城 敦賀市刀根

織田勢力を二分した賤ヶ岳の戦いで、柴田勝家が本陣を置いた山城跡。切堀や土塁が当時のまま良好な状態で残されており、「続日本100名城」に選定されている。



若狭町

9 熊川宿 若狭町熊川

若狭と京都を結ぶ鯖街道の宿場町であり、織田・徳川軍の越前攻めのルート。細川ガラシャの義母、細川マリア(沼田麿香)の出身地。

越前・若狭 戦国マップ



越前市

7 越前和紙の里 越前市五箇地区

岡太神社・大瀧神社が鎮座する五箇地区は、1500年の歴史を持つ和紙の名産地。街には、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康ら歴代の権力者からの紙の流通を安堵する印鑑が残る。「明智軍記」には、光秀が信長に越前和紙を献上したという記載がある。



小浜市

10 後瀬山城 小浜市小浜伏原他

大永2年(1522)に若狭国守護武田氏5代目の元光が築いた山城で、以降の若狭国主歴代の居城。若狭湾を望む標高168.5mの頂上部を本丸として、北東に連なる尾根筋に段々と曲輪群が並ぶ。国指定史跡。

越前・若狭 五名城

1枚 300円 御城印 GOJYOUIN

お城巡り

越前朝倉 一乗谷城
丸岡城
佐柿国吉城
金ヶ崎城
越前大野城
若狭重要文化財

信長、秀吉、家康 勢揃いの地 難関突破

若狭国三方郡

天空の城

特別企画

五名城を巡って
特別御城印を
手に入れよう！

五城の御城印をコンプリートいただいた方への特典！
越前・若狭五名城の全ての城名と家紋が入った特別御城印をプレゼントします！

注意事項

- ・五城の御城印を購入のうえ、いずれかの御城印販売窓口で五城分（5枚）の御城印を提示してください。
- ・特典プレゼントは令和4年3月以降に御城印を購入し、コンプリートした方のみ対象となります。
- ・なくなり次第終了となります。ご了承ください。



戦国大名朝倉氏が起源の「越前そば」

一乗谷に初めて居城を構えた初代朝倉孝景が戦時の非常食として栽培を奨励したのが、越前そばの始まり。当時はそばがき、そば餅として食べていた。その後、1601年に府中城主となった本多富正公が、そば師の金子権左衛門を伴って赴任したのを機に、麵状そばに加え、大根おろしを添える「越前おろしそば」の食べ方が始まった。

今日でも福井県民の健康長寿食として人々に親しまれ、県外からも多くのファンが訪れる。越前若狭の城巡りの道中で福井の戦国グルメ「越前そば」を味わってみてはいかが。

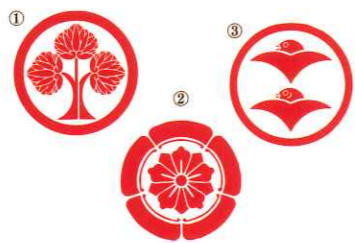
創業九十余年、越前そばのテーマパーク
越前そばの里
越前市真柄町 7-37
9:30～16:00



国重要文化財
丸岡城

現存する日本最古級の天守

外観は上層望楼を形成して通し柱がなく、一層は二階三階を支える支台をなし、屋根は二重で内部は三階となっており、城郭建築の初期のものです。屋根が全部石瓦で葺かれていて全国的にも稀な天守です。



① 本多家家紋

京都・賀茂神社の神紋が「二葉葵」の紋神官である本多氏はこの二葉葵を変えて家紋にした。

② 有馬家家紋

五瓜に剣唐花の「有馬瓜」「剣唐花」は「肥前大村家」と婚姻関係のあった「肥前有馬家」の両家で使用。

③ 柴田家家紋

由来は編隊を組んで飛ぶ姿が勇壮であることからの説があります。

住所 ▶ 坂井市丸岡町霞町 1-59
受付場所 ▶ 券売所窓口
販売時間 ▶ 8:30～16:30



0776-66-0303 丸岡城管理事務所



天空の城
越前大野城

奇跡に出会える天空の城

織田信長の部将、金森長近により天正8年（1580）頃に築城された平山城です。亀山と呼ばれる標高249mの小高い山の上に築城されており、晩秋から春にかけて十数回、城下町が雲海に包まれる神秘的な「天空の城」が出現します。



土井家家紋

丸之内水車紋

昔の水車には、輪の周りに柄杓を付けたものがあり、この柄杓形の水車を紋章化したのが水車紋です。土井家の家紋は、2代将軍徳川秀忠の老を勤めた土井利勝を宗家とする古河土井家の家紋の六つ水車紋の外側に丸を加えたもので丸之内水車紋とよばれています。土井家は4代将軍家綱の老中を勤めた土井利勝の子の利房が越前大野4万石の藩主となり以降明治時代まで8代にわたり越前大野藩を治めました。

住所 ▶ 大野市城町 3-109
受付場所 ▶ 券売所窓口
※冬季休館中（12～3月）は武家屋敷旧内山家にて販売
販売時間 ▶ 9:00～17:00 4～9月
▶ 9:00～16:00 10月～3月



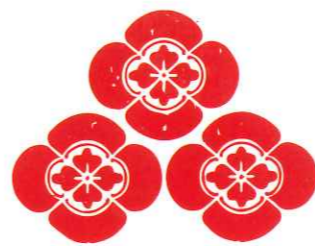
0779-65-5521 (一社)大野市観光協会



越前朝倉
一乘谷城

栄華を極めた戦国城下町

戦国大名朝倉氏が5代103年、領国支配の拠点とし栄華を極めた城下町。1573年織田信長に滅ぼされるまでは、約1万人もの人々が暮らし、茶の湯や舞踊など、政治・文化の中心として繁栄していました。



朝倉家家紋

三ツ盛り木瓜

朝倉氏は光徳天皇の末裔と言われており、日下部姓を名乗っていたころは「一ツ木瓜」を使用していましたが、源頼朝から手柄を立てた褒美に木瓜を2つ添えるように命じられ「三ツ盛り木瓜」を家紋とするようになった。また、木瓜紋の由来については鳥の巣を圖案化し子孫繁栄を願ったから、神社の御簾帽額に多く使用されており神の加護が得られるからなど諸説あります。

住所 ▶ 福井市城戸内町 28-37
受付場所 ▶ 復原町並南入場口受付
販売時間 ▶ 9:00～17:00



0776-41-2330 (一社)朝倉氏遺跡保存協会



金ヶ崎城

歴史の分岐点となった天然の要害

戦国時代、「金ヶ崎の退き口」の舞台となった金ヶ崎城。海と山に囲まれ、地の利を生かした天然の要害といえる山城でした。戦国武将が月見をしたと伝えられる山頂の月見御殿からは、敦賀湾が一望できます。



金ヶ崎の退き口

難関突破

金ヶ崎の戦いでお市の方が兄である織田信長に浅井氏の裏切りを知らせるため、両方を紐で結んだ袋に小豆を入れ、陣中見舞いとして届けさせたといわれています。この様子が袋の鼠（朝倉、浅井の挟み撃ちに遭うこと）をあらわしていると悟った織田信長は、殿（しんがり）を命じた木下藤吉郎（後の豊臣秀吉）、明智光秀らの活躍もあり、無事帰京したと伝えられます。

住所 ▶ 敦賀市金ヶ崎町 1-4
受付場所 ▶ 金崎宮社務所
販売時間 ▶ 9:00～17:00



0770-22-0938 金崎宮社務所



若狭国三方郡
佐柿国吉城

朝倉勢を退けた難攻不落の城

若狭国守護武田氏の重臣、栗屋越中守勝久が築いた若狭国境を守る「境目の城」です。1563年からほぼ毎年続いた越前朝倉勢の侵攻を悉く退けました。1570年、織田信長が入城して朝倉氏討伐の本陣としました。



栗屋家家紋

花菱に扇

栗屋氏は、清和源氏新羅三郎義光を祖とする武田信義の弟、安田義定の子孫が常陸国栗屋荘に土着したことが始まりといわれます。武田一族を示す花菱紋と、末広がりで縁起が良いとされる扇紋を組み合わせた家紋です。江戸時代に豊後国臼杵藩福葉家に仕えた栗屋勝久の子孫は、扇紋を外して花菱紋を家紋としました。

住所 ▶ 三方郡美浜町佐柿 25-2
受付場所 ▶ 若狭国吉城歴史資料館受付
販売時間 ▶ 9:00～17:00 4～11月
▶ 10:00～16:30 12月～3月



0770-32-0050 若狭国吉城歴史資料館